

第1回 高次脳機能障がいにつながる医療と福祉 in 町田

基調講演

慈恵医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 教授 渡邊 修 先生



施設紹介



多摩丘陵病院 作業療法士 三沢様



町田市障がい者福祉センター ひかり療育園 加藤様



町田市障がい者就労・生活支援センターりんく
主任就労支援コーディネーター 藤本さま

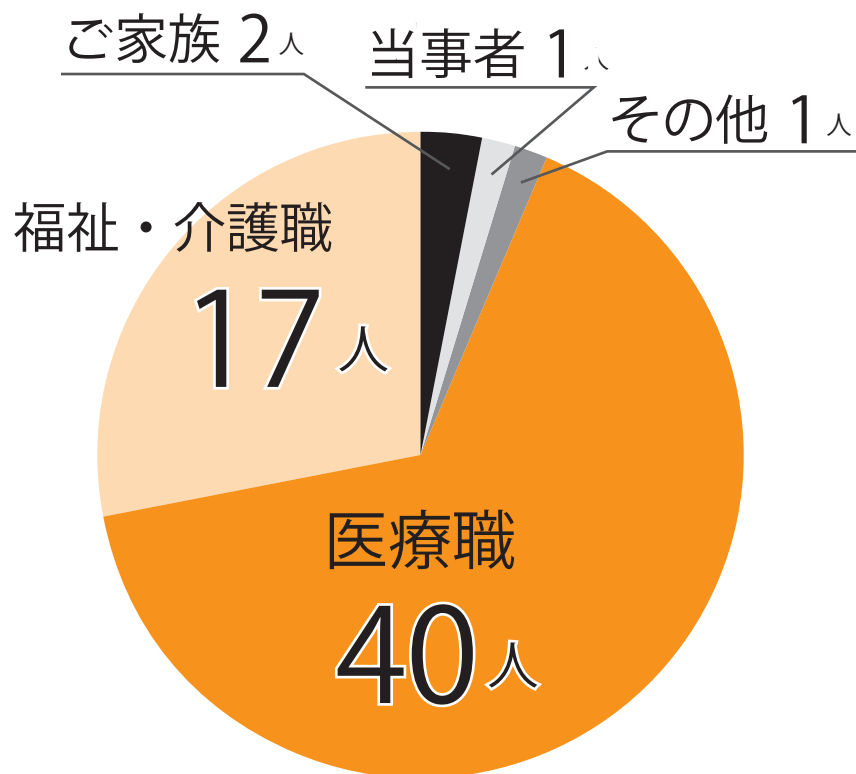
アンケート結果

出席者内訳

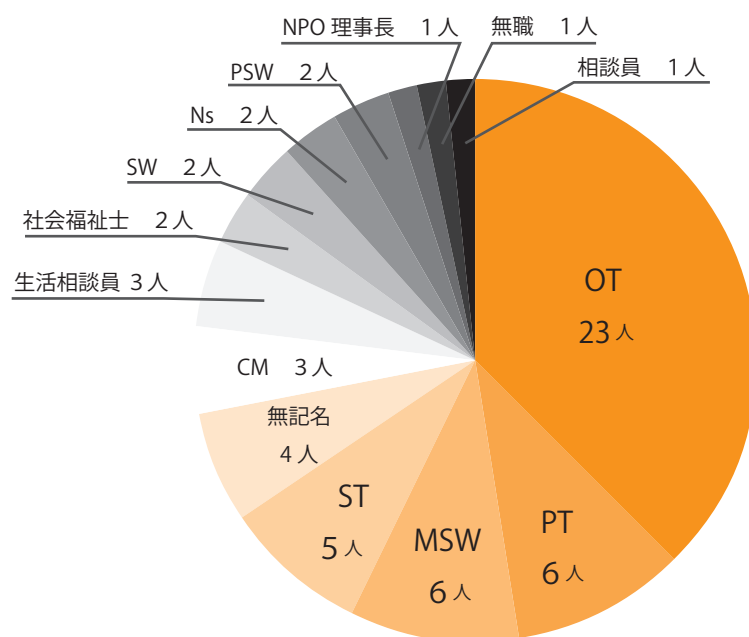
参加者	計 76 名
事前申し込み	56 名
当日参加	22 名
キャンセル	2 名

アンケート回収数 61 / 76 名 (回収率 80.3%)

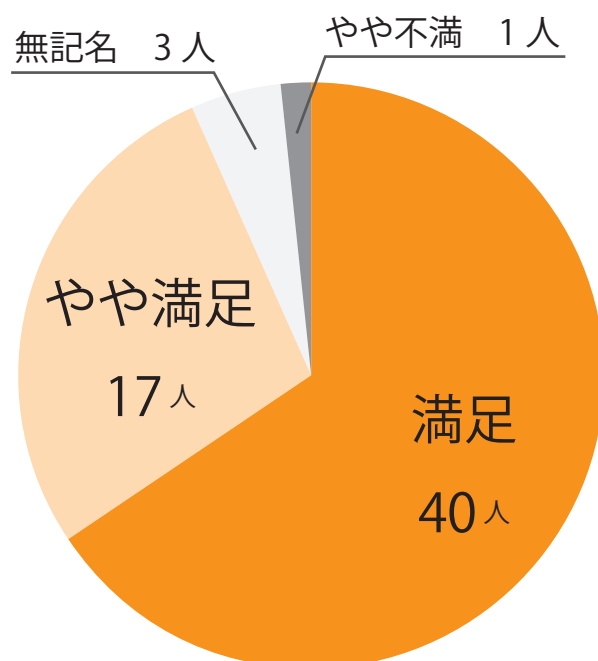
出席者内訳



職種



講演の満足度



本日心に残ったこと・ご感想など

- ◆高次脳機能障害については、少しですが知識を得ることができました。ありがとうございました。勇気が出ました。
- ◆社会脳を鍛える。元々持っている能力・スキルを活かす
- ◆高次脳機能障害はだんだん良くなりますの言葉、希望が持てました。
- ◆高次脳機能障害は、一生を通してサポートが日必要
- ◆家庭内の役割があるかどうかで、1～2年後の機能が違うという内容
- ◆就労支援センターの方、ひかり療育園と、普段聴けない話を聴けて良かったです。
- ◆渡辺先生のお話は知識の確認、高次脳機能障害についてあらためて考えることができ、勉強になりました。
- ◆高次脳機能障害はその人に合った活動により、改善がみられること。時間をかけることで改善がみられること。
- ◆“海馬は低酸素に弱い”ということは、とても貴重な知識を教えていただきました。
- ◆自宅に帰ってから、役割を持ってもらうことがポイントということ。
- ◆多職種による情報の共有とチームワークが効果的
- ◆連携をとっていく事が大事。つながっている
- ◆理解に勝る支援はなし。認知症につながるが多い
- ◆高次脳機能障害は良くなる。精神科の病気も高次脳機能障害である
- ◆年単位で変化していく
- ◆「高次脳機能障害のリハビリテーションは、地域にある」病院では限られたADLの訓練（生活ではなく）しかできていないのだと強く感じた。
- ◆高次脳機能障害の治療での、福祉センターグループプログラムが病院等よりも、より深い治療につながっていたことが更なる地域への興味・関心につながった。
- ◆高次脳機能障害の回復上昇の上がり方。グループ練習の必要性、家庭や環境での役割の必要性を再学習出来たこと
- ◆各機関の役割が知れたので良かったです。
- ◆「近年のリハビリテーションは社会参加・地域から」が心に残りました。
- ◆良い刺激により、一般的に考えられているよりも長期でも、脳は回復していくのだということで、退院したらリハビリが減ってしまうのではなく、更に良くなっていくような環境へどのようにつながていくかということが大事なのだと感じました。
- ◆病院では入院中しか主に支援できない。その後の環境に合わせて維持的な支援をしていくためには、地域との連携がより必要になってくると感じました。
- ◆理解に勝る支援なし（リンク藤本さんより）その通りだと思いました。
- ◆“年単位”で改善する。退院の時点では難しいと思われた就労も、数年後には可能性が出てくることがあるかもしれないと感じました。
- ◆理解に勝る支援なし
- ◆病院だけでは介入が難しい事も、地域の様々な施設で協力して支援していく事で、改善していく様子を知ることができて良かったです。
- ◆働き始めたばかりで、地域にどのような施設があり、どのようなことを行っているのか知らなかったなので、そういったことを知ることができて良かったです。
- ◆高次脳機能障害のある方に対し、個々の障害に向け単純な訓練をしがちでした。病院内では問題点が見えにくい。地域で生活してこそ見えてくるということ意識し、今後はその方のENT後の生活にもっと目を向け、アプローチと地域との連携を考えていきたいと思いました。
- ◆“同じ機能レベルで自宅に帰った人の1.2年後の機能は、家庭内で役割を持っているかで全く違う”

という渡邊修先生のお言葉に考えさせられました。

◆「理解に勝る支援なし」自分自身も、もっと理解を深めたいと思います。

◆高次脳機能障がいについては、基礎知識を持ち合わせておりませんでした。とても勉強になりました。ありがとうございました。

◆障害者手帳の発行目的として、「手帳でたくさん外に出て欲しい」というのがある、のですね・・・。

◆良い刺激を受けると、処理速度(VIQ)や記憶(VIQ)等の能力が向上する。5年程度経過したら、ブラッシュアップで再度入院してリハビリを行う等

◆必要とする環境で訓練することが大切。長期入院は、当事者もにとって良くない。

◆いいアクティビティは脳の血流を変える

◆町田市には、高次脳機能障害を持つ方を支援する施設が色々あることがわかりました。今後の参考にしたいと思います。

◆高次脳機能障がいに関する理解の確認と、それぞれの医療機関のことについて知ることができて良かった。

◆病院、ひかり療育園さん、りんくさんなど、町田にある施設を知る機会になってとてもためになりました。

◆とても勉強になりました。ありがとうございました。

◆いろいろな事業の特徴がわかり、とても勉強になりました。ありがとうございました。

◆ひかりの方「一緒に動く、断らない、つなげる」

◆病院でできるリハビリの限界を改めて感じました。患者さんのためにHP SWとして次につなげていける知識を身につけたいと感じました。

◆高次脳機能障がい、時間をかけて段階を踏んでリハビリをすることで、そんなに良くなるとは思いませんでした。とても勉強になりました。ありがとうございました。

◆渡なべ先生のお話はとても参考になりました。

◆退院後自宅で役割を持つことでその後の機能は大きく変わる → 役割を持てるよう支援できるように！

◆地域での取り組みは今まで知る機会がなかったので、とても勉強になりました。



今後の活動に関して期待すること・ご要望など

- 患者さんがサービスを利用しながら、在宅ですでされている実際の様子をさらに教えてください。
- 継続してください
- 具体的に地域サービスを利用する方法
- 福祉サービスのそれぞれの事業者などの違い
- 事例検討
- 神奈川県患者様も多いので、町田周辺の相談機関も知れると有難いです。
- 町田の各事業所の活動内容など知りたいです。
- 医療との連携の仕方（どう連携をとったら良いかわからない）
- 福祉施設（就労継続支援）の具体的な活動内容を知りたい。利用者の現状、声など
- 高次脳機能へのリハビリでの具体的なアプローチ方法
- 障がいを持った方が高齢化する中では、連携が重要だと思っています。
- 多職種による情報の共有と、チームワーク（連携）でその方が住む地域で生活できることを望みたいです。
- 地域の資源について、互いに知り合えて、つなげていけるような関係を作っていければと思います。
- とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 南多摩医療圏高次脳機能障害支援マップの作成に期待しています。
- それぞれの病院や施設の取り組みを教えてくださいれば良いと思いました。
- 相談を受ける立場のものが、情報不足のために患者様対象の方の可能性をつぶすことがないよう、学んでいきたいと思っています。このような企画をありがとうございました。
- 1人の方の病院～地域でのリハビリの内容について知れたら・・・と思います。病院でやるべき事、地域での役割など具体的に知りたいです。
- 支援センターや福祉センターに実際に行って見学してみたいと思います。
- 事例検討など
- 実際に受けている相談をケーススタディで共有・考える場になると嬉しいです。
- 関係職種間以外で、地域でどのように支えていくか課題があるかと思っています。認知症もそうですが、地域の協力もかせないかとも思います。それをどの様に行えばいいのか、難しさを感じています。
- 最後にお話がありましたが、症例検討等を行っていただけると嬉しいです。出来ることなら脳の機能局在等について解説していただきたいです。
- 市内で病院から地域に連携し、成功した例を知りたい。仕事を開始した当事者の方の話を聞きたい。
- 高次脳機能障がいの方が利用できる制度、施設についての情報共有
- 高次脳機能障がいに特化した施設やサービスなど、あまり情報がないので、知ることができればと思います。
- 顔の見える関係づくりをひきつづき行えたらと思います。
- 病院 → 地域にどうつながって就労につながったケースがあるか、事例を通して学びたい。
- 地域の福祉施設（ひかりなど）と連絡、連携できればよいと思いました。
- 事例検討